

2025年度 自己評価結果表

学校法人釧路キリスト教学園

釧路キリスト教学園 釧路めぐみ幼稚園

本園の教育目的

神様の愛と恵みのもとに生かされている喜びを分かち合う。

神様が愛をもって造られた世界は、恵みに満ちています。特に神様のかたちに造られた私たちの中には神様の限りない愛がこめられています。その神様の愛と恵みに出会い、感動と喜びを体験し、自分自身がかけがえのない人間として生かされていることを知る時、他の人もまた同じように尊い命に生きていることに気づくのです。

また、互いにその喜びを分かち合い、共に生きることを具体的に体験していきます。

園生活を通して、神様の愛のもとで先生や友達と喜びを共に体験し、自分を愛し、他の人を愛し、自然を大切にする、調和のとれた人間性の教育を目的とします。

本園の教育目標

- 1) 子どもが、自分自身を大切なひとりとして受け入れられていることを感じ取り、自分自身を喜びと感謝をもって受け入れるようになる。
- 2) 子どもが、イエス様を身近に感じ取ることを通して、見えない神様の恵みと導きへの信頼感を与えられ、「イエス様と共に」毎日歩もうとする思いを持つようになる。
- 3) 子どもが互いの違いを認めつつ、一緒に過ごす努力をし、そのことを喜びとするようになる。
- 4) 子どもが心を動かし、探究し、判断し、想像力をもち、創造的にさまざまな事柄に関わるようになる。
- 5) 子どもたちが、私たちの生きる自然や世界を神様による恵みとして受け止め、それらの事柄に関心をもち、自分たちのできることを考え、行うようになる。
- 6) 子どもが、してはいけないことをしようとする思いが自分の中にあることに気づき、そのような思いに負けない勇気をもち、行動する。

本園教育の4つのめあて

- ① たくましい心身と生きる力を培う。
- ② ひとりひとりを大切にし、自主的な子どもを育む。
- ③ 恵まれた自然環境を通して、創造性と感性を豊かにする。
- ④ 神様の愛に気づき、共に生きる喜びを体験する。

◇ 2025年度重点的に取り組んだ内容

年主題『ともに～イエスさまとともに～』

年主題聖句「私はあなたと共にいる」イザヤ書43章5節

1、キリスト教保育

今年度の主題は「ともに～イエスさまとともに～」。園内各所に掲げられている「インマヌエル～イエスさまがとともにおられる～」を実感する毎日をすごしたい。そして、イエスさまがともにいてくださるからこそ、新たに人と出会い、手を取り、助け合っ一緒に歩むことができるよう、めぐみ幼稚園に集う子どもたちと保護者、教職員たちの心が広く開かれることを願う。

どんな時にも、変わらず語りかけてくださる神の「わたしはあなたと共にいる」との御声を日々受け取りつつ、教職員が一つ心となって、神からのご委託に仕えていきたい。

毎月、聖句の学び(理事長担当)、キリスト教保育誌を読む時間(園長担当)を設けた。読み合わせで終わらず、思いを分かち合う時間は教師間の親しい関係を育み、教育目標の理解や礼拝を大切にする教師の姿勢に良い影響をもたらしたことが自己評価からわかる。

2、保育の取り組み・子どもたちへの対応

○2026年度は「日本」をテーマとした。様々な行事を通して、日本各地の特徴に楽しみながら触れた1年だった。創意工夫を凝らした環境設定を提供し、子どもたちと教師が一体となって取り組むことができた。

年長組がタイトルを考え、教師が作詞作曲したテーマソング『にっぽん大好きおんど』は集会毎に全園児で歌い親しんだ。また、10月のめぐみーらんの活動では、1・2歳つぼみ・つくし組「北海道」、年少たんぼぼ組「大阪」、年中ちゅうりっぷ組「沖縄」、年長すみれ組「東京」とクラス毎に担当する地域を割り当て、各地方特有の言葉や食べ物などを、絵本や音楽などを通して楽しく知っていき、それぞれ趣向を凝らした商品を作り上げ、テーマの集大成となった。

○危機管理の取り組み

7月30日のカムチャツカ半島地震による津波警報・避難指示を受け、湿原の風アリーナへの避難を経験した。マニュアルの見直しや、月毎の避難訓練の実施の仕方も、より具体的に実践的になってきている。マニュアルの理解について自己評価では低い結果となっているが、具体的な危機を知れば知るほど、より学びと共有、教師間の連携を深める必要があると感じているためと思われる。

3、自己の課題・重点目標

自己評価に加え、今年度も各学期自己研鑽の目標を立て、教師それぞれが自己の資質向上の課題と取り組んだ。園内研修に加え、今年度は学園の研修にも参加し学びを深めた。一人2つ以上の研修に参加し、担当する子どもたちの年齢に合わせた発達について学んだり、配慮の必要な子どもたちへの関わりについて学んだりした。

各自受けた研修はレポートとしてまとめ、教師間で回覧し全員の資質向上のため共有している。

4、保護者対応

子どもたちの小さな怪我やトラブル、園での様子は担任が責任を持って保護者と丁寧に共有している。このための連絡ノートは非常に大切な個人情報を含むツールであると認識し、本年度からお迎への保護者には手渡しで返却している。

5、地域の自然や社会との関わり

自然豊かな環境の園庭はもちろん、季節毎に近隣の公園や運動施設まで散歩をして楽しい活動を行っている。道すがら、近隣住民と挨拶を交わすことも地域との交わりとなっている。

花の日の訪問を通して高齢者施設や、消防署への訪問。年長児は年賀状発送を通して郵便局、献金の寄付のため釧路町役場にも訪問した。社会の働きに感謝し、自分も貢献することを通して関わりを深めている。富原小学校には「秋の宝物ランド」に招待していただき、年長児が参加。昨年卒園児の成長も見ることができた。

地域の傘踊り保存会の方の指導を受け、傘踊りを体験することができた。

◇評価分類の達成及び取り組み状況（教職員による自己評価）

評価項目	今年度の取り組み	評価
年間目標	○教育目標の理解 毎月の聖句とキリスト教保育誌の学びを通して、めぐみ幼稚園が大切にしている神を愛し、礼拝する姿勢が培われた。	3.8
保育のあり方・ 子どもたちへの対応	○礼拝 週の最初に合同礼拝をささげ、毎日の始まりもクラス礼拝を大切に、子どもたちの心と体の健やかな成長を祈り続けた。	3.6

	<p>○保育計画、環境構成 子どもたちの発達をよく把握し、配慮した計画・環境構成を計画できた。特に年間テーマには子どもたちが興味を持って取り組めるよう創意工夫が施された。</p> <p>○心と言葉の成長 子どもたち自身が相手の気持ちを考え、話し合うことができる時間を保持できた。気持ちの良い挨拶も実践することができている。</p> <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創造性を育む素材や技法、環境設定 ・歌やダンスの表現遊び ・危機管理マニュアルの学び ・配慮の必要な児童に関わるさらなる学び 	
<p>教師としての資質と研鑽</p>	<p>○教師間の連携 連絡ノートやシール帳、個人情報等の記載された重要書類の取り扱い、園内での個人スマートフォン利用について、教師間でよく話し合い対応を改めることができた。守秘義務遵守の意識も高まり、システムも構築され、主幹・主任教諭や園長への必要な相談や報告も適切に行われている。</p> <p>○研修と研究 年間、一人2回以上の研修に参加し、自己研鑽の目標・目的が各自しっかり見定められている。次年度以降も学びを深めたい。</p> <p>○保護者との関わり 保護者との信頼関係構築に配慮して、連絡ノートや電話、おたよりで、丁寧かつわかりやすい表現で対応できている。</p> <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師会に出席できる教師と、できない教師の間での情報共有は引き続き課題である。 ・自分の苦手分野に対する研鑽が今後の課題である。 ・対応に迷う難しいケースも教師会で相談する雰囲気も育まれている。今後はさらにアイデアを出し合い対応していきたい。 	<p>3.6</p>

<p>地域の自然や社会との関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若干評価が低かったが、廃材遊びにはかなり力を入れ、子どもたちも自由な発想で製作に取り組んでいた。材料を廊下に設置することで、年長児の製作を年中・年少児が憧れて真似をするという良い刺激も見られた。これが SDGs に繋がるということを教師間で理解し、評価につなげたい。 ・花の日の行事や、散歩も地域社会との関わりとして認識、評価していきたい。 	<p>3.3</p>
----------------------	--	------------

2026年度の目標

年主題『しゅイエスとともに』

年主題聖句「主があなたと共におられる」ルカによる福音書1章28節

1、キリスト教保育

年主題『しゅイエスとともに』に基づいて、神様がマリアに天使を通して御言葉を語りかけられたこと、それが今、私たちにも起こっているのだということを驚きつつ実感したい。礼拝において聖書の物語にたくさん触れて、教師は御言葉を語る喜びを、聴く子どもたちは目に見えない神様の御言葉を受け取り、思い巡らせる喜びに満たされたい。

2、保育の取り組み・子どもたちへの対応

○「生活のすべてを通して伝えられていく」キリスト教保育を土台にし、年間テーマを活かした、日常の遊びの環境設定、全体の活動や行事を計画していく。教師間の連携を強め、風通しの良い関係を構築したい。

○新しい素材や遊び、配慮に対する学びを深め、日々の幼稚園生活が子どもたちも教師も充実したものになるように自己研鑽と学びを励行する。

○「子どもの人権擁護」についての学びを行い、自己の保育を振り返り、ブラッシュアップに努める。また、教師間で、適切でない関わりから子どもたちを守るよう連携を強める。

3、危機管理

○さまざまな想定避難訓練を毎月行い、防災、防犯の意識を高める。特に危機管理マニュアルに基づいて訓練を計画・実施・振り返り、より実践に即した訓練ができるように取り組んでいきたい。このことによって、マニュアルをしっかりと身につけることができるようにしたい。

○発災後、通常保育をできるだけ早く、安全に回復するための備えと計画も検討を進める。

4、保護者、地域の自然や社会との関わり

○スマートフォンアプリを導入して、保護者への緊急お知らせの配信を行うように整備する。登降園の打刻や利用料の請求にも機能の利用を広げたい。

学校関係者評価委員会 2025年度評価

学校関係者評価委員 淀川敬子 高橋徳庫 長久保美智代、目黒ゆかり

第3回委員会「お別れパーティー」参観後

◎園全体で楽しむ会に小さい子どもたちも頑張っていたのが印象的だった。たくさんのオリジナルソングが歌われていて、幼い時に歌った歌はその後成長の中でもきっと楽しい思い出とともに大切な財産になると感じる。

◎全身でのびのびと楽しんでいる姿を見ることができた。型にはまらず、一人一人のポーズが違うのが良い。一方で、礼拝では静粛になり、静まる時間もきちんとある幼稚園生活だと思う。

◎年長児：劇の中で、バンダナを上手に結べる子が上手くできない子の手伝いをしてあげる姿に心が暖かくなった。小学生になると勉強が中心になってしまっていて、心の成長を評価点として見る機会がない。幼稚園ではそれが大切にされていてよかった。

◎年中児：司会の係として、文字を読める子が、読めない子の助けになって司会ができていて立派だった。

◎教職員：清潔な身なり、丁寧な子どもたちへの言葉遣い。また、互いに助け合って連携が取れた動きを見ることができ、風通しの良い人間関係が築かれていることを感じた。特に個別の配慮が必要な子どもに対して、どの先生のところに行っても優しく受け止められていて、教師全員で一緒に子どもたちを保育していることを感じた。風通しの良さは今後も保持し、相談しあい、補い合う関係を育てていって欲しい。